

会 議 要 旨

会議の名称	川越市立川越高等学校教育審議会第5回会議
開催日時	平成28年2月5日(金) 午後3時00分 開会 ・ 午後5時00分 閉会
開催場所	川越市立川越高等学校中会議室
議長(会長)氏名	会長 遠藤 克弥
出席者(委員)氏名(人数)	副会長 西澤 寛 石井 成人、伊藤 幾造、大竹 秀明、斎藤 清隆、新保 正俊、 土田 賢省、永松 靖典、笛木 正司(9人)
欠席者(委員)氏名(人数)	澤田 隆、永瀬 慎二 (2人)
事務局職員職氏名	学校教育部 部長 小林 英二、参事 山本 康義 学校管理課 参事兼課長 中野 浩義、副参事 内山 久仁夫、 指導主事 杉田 和彦、指導主事 栗田 大悟 市立川越高等学校 校長 関 俊秀、参事兼事務長 大嶋 美紀夫
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会のことば 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第4回会議の概要報告 (2) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 答申(案)について その他 3 連絡・報告 4 閉会のことば
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川越市立川越高等学校教育審議会第5回会議次第 ・ 川越市立川越高等学校教育審議会委員名簿 ・ 第4回会議要旨(案) ・ 川越市立川越高等学校教育審議会第5回会議 資料

議 事 の 経 過

1 開会

2 議事

(1) 第4回会議の概要報告

事務局より、第4回会議要旨について説明し、案のとおりホームページにて公開することについて了承された。

(2) 協議事項

答申(案)について

事務局より、川越市立川越高等学校教育審議会第5回会議資料をもとに説明。関連して次のような意見等が示された。

【意見等の概要】 (: 委員 ・ : 事務局)

p 9 ~ p 1 4 「2 市立川越高等学校の長期的ビジョン」について

p 1 1 「育成すべき資質・能力」では、この後の学校における検討を考えると、具体的なものをもう少し強く出した方がいいのではないか。

p 1 1 「育成すべき資質・能力」は、ことばとしてはきちんと書かれてあるが、具体的に考えていった場合、どのような点を伸ばしていくとよいか、例として記載した方がよい。

p 1 1 の「育成すべき資質・能力」の具体例については、p 1 7 「本ビジョンの実現に向けて」に書かれているので、「育成すべき資質・能力」との関係をもう少し強く出して具体的に描くとよい。

p 1 2 「長期的ビジョンを考える4つの視点」の「時代の要請」にある「オリンピック」は、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」と明記した方がよい。

国際化も大事だが、「生徒のための学校」ということを考えると、学校行事が盛んであること、部活動が活発であることなどの「学校文化」の継承は重要。

長期的ビジョンの中でも、現在あるものをどう充実させていくかが大きな課題。部活動が盛んで、文武両道を目指しているというのは一つの伝統である。

市内唯一の市立高等学校ということ、どう表現していくか。p 1 1 の将来都

市像、基本理念、これだけを考えると何でもありになってしまう。川越の、この学校で学んだことを発信できることが大切。

印象としては受け身的な感じ。先を見越してやるのはよいが、グローバル化とか国際化がはやっているからという印象。市立川越らしい部分を絞り、強調した方が印象は強くなる。

昔は社会に出たらすぐ使えるような商店主になるような勉強をしていた。今は英語が少し喋れた方がいいとか、会社経営がしっかりできる人を育てようということ。「企業経営」のようなものが、インパクトが出てくるのではないか。

創立100周年に向け、日にちはすぐ来てしまう。1年目はこう、2年目はこうと書かれていたほうがよい。第2期の審議会での検討になると思うが、我々がやってきたことも一つの段階である。現実に活かせるとよい。

今度の教育課程の改訂で、小学校5・6年に英語科が創設され、3・4年に外国語活動が入ってくる。市立高校に入学してくる生徒も、早い段階で英語を学習してくる。「おもてなしのために英語力をつける」ということは大切。

市立高校の生徒は地域に出て行って寺子屋教室に参加してくれている。これからは、喜多院や蔵造りに生徒が出て行って、外国の方を「おもてなし」するための英語力を付けていってほしいという部分は重要。

「商業経営後継者の育成」では、将来のビジネスに積極的に参加していけるような能力、まさに新しい川越を支えていくようなビジネスマインドが充実していくようなことばがあるとよい。

「使える英語」というのが流行。今までは文法中心。TOEFLではなくて、これからは職業に通じるTOEICが中心になっている。

p15「教育条件の整備」について、学校をつくる最大の教育環境は教員。このビジョンを成し遂げるのは教員の力。川越市で給料を払っている。市で独自採用や、市にあった人材育成など、教員の人材育成が重要。

昨年11月の授業参観で、生徒の理解の状況に気を配りながら授業を進めている教員がいた。こうした授業が落ちこぼれをなくすのではないか。英語力を上げるには、優れた教員が必要。年数回教員を監督するような部門があってもよい。

大学では文科省から研修を行うよう指導されており、教え方からアクティブ・ラーニングのやり方まで、専門家が来て教える。資質を上げるには、学校全体としてきちんと行っていくことが必要。

- ・ 人材育成については、p 13の最初の「指導の方法等の充実」と記載している。具体的な方策等については、第2期審議会で検討したい。
- ・ 昨年の県外視察で他県の先進事例に触れ、大変参考になった。向こう3年から5年くらいは、市立高校の教職員に管理職と一緒に視察に行ってもらい、発表やレポート提出を行う、こんな形の研修についても検討することが必要。

「教員研修の見直し」については、p 10「課題」にも記載がある。「TOEICの資格取得について高大連携を行う」などについても載っている。

「起業する」「起業家」というのは大事なこと。経済や、そういった意欲を活かせるような教育の仕方が重要。

今ここに入ってくる生徒で、「後継者」はほとんどいない。そういった意味では、「原点」としては、「起業家育成」などの言い回しの方がよい。

指導者の育成は非常に大事だが、商工会議所や市役所など、川越にはたくさん指導者がいる。こうした方々をもっとうまく活用していく方向を、どこかに書くことが重要。特にIT関係は、新しいものを使える人を連れてくることが重要。

指導者の発想が重要。教員に得意分野以外のことを教えて、それを教員が生徒に伝えるより、市立高校という意味では、市内にはいろんな企業があるので、そういった人材をたくさん使えばよい。

p 13では、全体的な関係の中で、アクティブ・ラーニングがこういう意味で重要だとうまく落とし込んであるが、p 12の使われ方は疑問。アクティブ・ラーニングは、単独の科目や意図というものの中で出てくるものではない。

p 13も含めて、アクティブ・ラーニングについては、長期的ビジョンに入れるべきことばであるか疑問。新学習指導要領で出てくれば、2～3年後にはやらざるを得ないもの。p 13でかなり書き込まれているので、再検討が必要。

- ・ 市立高校としてアクティブ・ラーニングを導入していくことを考えると、あえて明記しておくことで、意図が伝わるということも考慮。また、LL教室の改修

については、アクティブ・ラーニング用の教室という観点も重要と考える。

「教育条件の整備」の話であれば、「3」のところがよい。学習指導要領が改訂となれば、アクティブ・ラーニングはやらざるを得ない。「自明である」または「喫緊の課題である」という扱いが必要。「長期的」な話ではない。

学校評価の観点からも、第一は生徒の満足度。これに保護者、市民と続く。「市民の要望」が前面に出ると、この順序が逆になる。生徒の満足が最も重要。

市立川越高校は、昔は商業科。「あそこに行ったら4年制大学行けるの」という心配を持つ保護者は未だに多い。「市民の要望」として、大学進学に備えていくという視点は引き続き重要。

「市民の要望」という表現は誤解を招く。市民の要望は多様であり、何か一つのことを要望しているわけではない。もう少し保護者や生徒を主体としたことばとした方がよい。

「市民の要望」ではなく、ここを抽象化したタイトルにした方がよい。

- ・ p 1 2 は長期的ビジョンの「検討の視点」を示したもの。あくまで p 1 3 が長期的ビジョンの本体であるが、p 1 2 が長期的ビジョンそのもののよう誤解される恐れがある。検討したい。

p 1 2、p 1 3 とも「長期的ビジョン」ということばが使われており紛らわしい。もう少し p 1 3 を目立つように持っていけば、普通に流れていくのではないか。

- ・ 間の部分をよく読まないで中身が誤解されるので、小見出し等を付け加えて、意図が伝わるよう校正させていただきたい。

p 1 3 について、長期的ビジョンの中で「アクティブ・ラーニングが必要である」というのは時代にそぐわない。アクティブ・ラーニングの実施は前提。その上で、「主体的な学び」という学習方法の一層の充実を図り、「社会に貢献しようという志を育む」ことが必要、という表現に改めることが必要。

アクティブ・ラーニングは「方法」。今後使わなければならない「方法」として挙げられているので、そういう形に文章を持っていくことが必要。

p 15 ~ p 16 「3 教育条件の整備」について

「教育条件の整備」は「教育環境の整備」。ソフトの面とハードの面で書き分けることが必要。ソフトの面では、教職員の研修や、地域の教育資源をどのように活用するかなど、言及することが必要。

これからは、各教室にコンピューターや電子黒板、プロジェクターなど全部ついているのが当たり前になる。生徒1人1台のタブレットについては、アクティブ・ラーニングということばを使う以上は必要。踏み込んで書く必要がある。

大学では英語で授業をするために、ネイティブの人とペアを組んで授業が行われている。こうした対応がなければ、教員が英語で授業を行うということにはならない。ネイティブの人が、教員の英語について相談に乗るような支援も必要。

生徒が自律的に学習を進めるためには、授業とは別に、図書館と併せて、ネットワークの中からパソコンを使って情報検索ができるような部屋を用意することが必要。

本日の答申案の内容は古い印象。大学では、アメリカとの会議はスカイプでやっている。学生の出席はiPhoneで取っている。また、電子黒板より進んだもので「ムードル」というものがあり、教員が研修を受講している。

日本の情報教育は遅れている。市立高校であれば、例えばフランスなどのように、教科書は全部学校に揃っていて、生徒は手ぶらで登校するとか、一か所くらいは他の高校でやっていない新しいものを取り入れることが必要。

市内の中学校で水泳部が減少しているが、一番困っているのは冬の活動。中高の連携で行くのであれば、市立高校に室内プールができると、中学生を泳がせることができる。

市の中で障害のある人が学校として選べるように、選択を広げるようなことも重要であり、大事である。それは、そういうことをケアしている学校だということが、目に見えるからではないかという気がする。

アメリカの大学では、図書館が24時間開放されているところもある。図書館の充実など、こうしたことに便宜を図ることによって、生徒は勉強するようになる。市立高校もこうした部分で特色を出すことが重要。

無線LANなどの環境は、一度整備すれば、タブレットがどこでも使えるよう

な学校になる。計画を立てることが必要。授業でパソコンやプロジェクターは当たり前になっているので、教職員が対応できるかが最も重要。

基本的な環境をどうやって整備するかが大事なところ。他の県に先駆けてという意見もある。市の予算だけでは厳しい場合は、補助金なども検討することが必要。他に絶対負けないように検討することが重要。

プロジェクターについては、愛知や大阪の高校では入っている。インタラクティブに授業ができるということが、当たり前の状態になりつつある。こうした環境整備はぜひ行ってもらいたい。いつまでもチョークと黒板の時代ではない。

市立高校にとっては、川越市内は全域が「地域」。そんな内容のことも、この教育環境の整備のところで挙げてもらうとよい。市立高校の生徒は地域の色々なところに出てきてもらっている。

ICT環境の整備について触れる際に、それを活用するための教員の育成についても併せて記載するとよい。教育環境の整備に、教員がついていけないということがあると困る。

川越市内でもITに優れた企業の20代から30代の人たちはいろいろなものを使っているので、こうした人材が先生になることができるとよい。民間であれば、ボランティアでやってくれる人たちもいるのではないかな。

英語教材のサンプルを使用させてもらうなど、企業と学校がタイアップしたような取組ができるとよい。

商業家や起業家のマインドを養うには、カリキュラムの中に入れるものもあるが、施設の中で見えるようにすることが重要。川越の商店街と一緒に実習などを行うスペースを校内に設置するとよい。

大学などではカフェテリアがある。起業家マインドを育成するためには、上級生や下級生や教員も加わって色々なところで議論する。そこで新しいアイデアが生まれる。こうした企画を立てるための部屋をつくる必要がある。

実際に、ビジネスや、川越の町で売るものなどを実習する、企画やプランを立てるための部屋が必要。そこでは、景気の動向などを分析するために、為替などに係る情報を参照できるようにする。商業らしい特徴のある施設が必要。

p 17 ~ p 18 「4 本ビジョンの実現に向けて」について

p 17で、アクティブ・ラーニングは施設・設備の問題ではなくソフトの話。これ以外に意図的にアクティブ・ラーニングを導入するにあたって、学校でどうということが考えられるか、検討させることが必要。

「使える英語」ということで、TOEICのスコアを検討してもらうとよい。すべての生徒を対象とするのは難しいとしても、ある程度できるということになれば、外へ示す。TOEICのスコアが取れる学校として大きな宣伝になる。

アクティブ・ラーニングは、人材育成の中に位置付けて、学校として教えあい、課題を解決する。その総称がアクティブ・ラーニング。教えることのできる人材を育成するという観点で位置付けることが重要。

ICTなど情報分野に係るリテラシーを高める観点に係る方策については、モノとヒトの二つがある。情報教育を一人の教員で行うのはとても大変。情報を教育できる大学院生など、高大連携や地域人材の活用などの観点が重要。

- ・ 「プログラミング教育」ということばが脚光を浴びている。市立高校にも「プログラミング」という授業がある。「プログラムが書ける人材の育成」という観点から、市立高校でも基礎的なところをやらせてもらえるとよいと考えている。

商業教育について、外の力を借りてやっている学校がいくつかある。例えば、商品開発をGoogleなどが支援しているので、一緒にやっている学校がある。高校生が地域や企業と連携して商品開発を行う、そのような取組も検討が必要。

異校種との連携について、高大連携を行う際は、地域の中学校を連携に含めるとよい。

アクティブ・ラーニングの導入に当たっては、最初は施設設備より、学校においてどのような研修を行っていくか、学校における検討であれば、こちらが先に来ることが適当。

長期的ビジョンの実現に向けた生徒定員の検討は、学校で行うものか。生徒定員については、学校として学科の定員について要望や希望が出てくることはあると思うが、今回は5年先、10年先を見据えたビジョンに係る定員の検討である。

- ・ 方向性としては普通科の増、商業系学科の減。普通科の増学級による9学級や、商業系学科の減学級による8学級など、まずは学校において検討してもらって、

それを踏まえて第2期審議会を通して検討していくことを考えている。

学科を変えるという文言を入れなくてよいのか。

- ・ 今回の審議会は理念中心。理念は理念として示し、具体的な方法論については、学校にも考えてもらいたいと考えている。

この審議会として「学科の再編を望む」ということは書けるか。グローバル化ということが出ている以上、もう少しグローバル化に対応した学科再編を行った方がよい、という意見が審議会から出ている、という書き方をしてもよい。

学科の再編や中身の改革というときには、一つには社会の変化というものをどう捉えるか。教員数に対して生徒数、収益と支出の問題が絡んでくる。教室数の問題など、こうした議論なしには恐らく成立しない。議論の依頼には、学校の該当する人たちに、考え方を示すことが必要。

- ・ p14では、「商業系学科は、大学等上級学校への進学と国際ビジネス社会で活躍できる資質・能力を育成する観点から教育課程を再考し」となっている。審議会の総意として、必要であれば「学科再編等」と例示することは可能。

学校における検討を依頼するのであれば、議論のもとになるものをきちんと与えておかないと、その議論がどこに行ってもよいということになる。

学科再編については、p14「教育課程を再考し、内容の充実を図る」で、そこまで読み取るのは困難。内容の充実を図るとともに教育課程を再検討する、再検討した先には当然再編もありうる。「再考」ではなく「検討」がよい。

市長が野球の応援に来てくれた。会うたびに「野球をもっと強くするには」という話題が出る。将来性を考えて、運動部を強くすることが市立としてできないか。特待生のような形も含め、川越市の市立高校として特色を出すことが必要。

p17「国公立大学や私立大学へ一般入試で合格することを希望する生徒に対応する場合」とあるが、「合格」と「進学」は別。「進学」ということばがよい。

- ・ 生徒や保護者の期待に応える観点から、進学実績は重要。現在の普通科のカリキュラムで、難関大学の一般入試にまで対応するのは難しいのではないかと。複数のカリキュラムを用意することについて、検討が必要ではないかとの趣旨。

「合格」は学校の立場。生徒にとっては何校合格しても、「進学」するのは一校。ここに書くには、生徒向けに書いた方がよいのではないか。

ここは、「進学」することを希望すると簡単に書いた方がよい。

(会長)

今後の答申案の取りまとめとして事務局からお願いしたい。

(事務局)

今後の答申のとりまとめについて、本日の話し合いを、会長と事務局でまとめていくことでどうか。

(会長)

ただ今の事務局の提案でよろしいか。

(「異議なし」の声)

(事務局)

それでは後日、会長と事務局で答申のとりまとめをさせていただく。

(会長)

これで最後だが、これまでお忙しい中、ご出席いただいて御意見をいただいたことにお礼を申し上げながら進行を終わりにする。ありがとうございました。

3 連絡・報告

(事務局)

事務局を代表して、学校教育部長があいさつを申し上げる。

(学校教育部長 あいさつ)

続いて、当該校である市立川越高等学校長より、お礼のあいさつを申し上げる。

(市立川越高等学校長 あいさつ)

4 閉会

(事務局)

以上をもって、川越市立川越高等学校教育審議会第5回会議を閉会する。